

練習課題 NO.11 設計課題「住宅地に建つ喫茶店併用住宅(木造2階建)」

1. 設計条件

住宅地に建つ喫茶店併用住宅を計画する。  
計画に当たっては、次の点に留意すること。

- ①店舗部分と住宅部分は、出入口を明確に分離し、屋内の1階部分で行き来できるようにする。
- ②屋外テラスを設け、喫茶店の客席スペース一体的に利用できるように計画する。

(1) 敷地

- ア. 形状、道路との関係、方位等は、下図のとおりである。
- イ. 第一種住居地域内にあり、防火・準防火地域の指定はない。
- ウ. 建ぺい率の制限60%、容積率の限度は200%である。
- エ. 地形は平坦で、道路及び隣地との高低差はなく、地盤は良好である。
- オ. 電気、都市ガス、上水道及び公共下水道は完備している。

(2) 構造及び階数

木造2階建とする。

(3) 延べ面積

必ず「160㎡以上、200㎡以下」とする。  
(ピロティ、玄関ポーチ、駐車スペース、駐輪スペース、屋外テラス等は、床面積に算入しない。)

(4) 家族構成等

夫婦(夫婦で経営)、子供2人(男子中学生、女子小学生)、従業員2人(通勤)

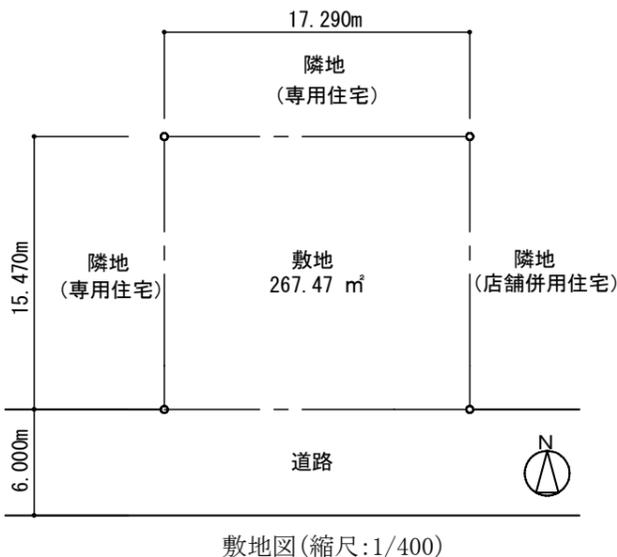
(5) 要求室

室名	設置階	特記事項
店舗部分	客席スペース	1階 ア. 40㎡以上とし、カウンター席及びテーブル席(計30席以上)を設ける。 イ. レジカウンターを設ける。
	厨房	・13㎡以上とし、その他に収納を設ける。
	客用便所	・男女別に設ける。
	従業員室	ア. 4㎡以上とし、厨房から出入する。 イ. ロッカー室を兼ねる。
	従業員用便所	・適宜設ける。
住宅部分	玄関	・店舗の出入口とは併用しない。
	納戸	・6㎡以上とする。
	台所	2階 ア. 1室または2室としてもよい。 イ. 計25㎡以上とする。
	食事室	
	居間	・適宜設ける。
	納戸	・適宜設ける。
	夫婦室	・洋室12㎡以上とし、その他に収納を設ける。
	子供室(2室)	・洋室9㎡以上とし、その他に収納を設ける。
	浴室	・3㎡以上とする。
	洗面脱衣室	・3㎡以上とする。
便所	・心々1,365mm×1,365mm以上とする。	
住宅部分の2階の廊下の幅は、1,365mm以上とする。		
その他必要と思われるもの		

(6) 屋外テラス、駐車スペース及び駐輪スペース

屋外に下記のを計画する。

名称	特記事項
屋外テラス	ア. 30㎡以上とし、客席スペースと一体的に利用できるようにする。 イ. テーブル、椅子などを設け、植栽を計画する。
駐車スペース	・小型乗用車2台分とする。
駐輪スペース	・自転車5台分とする。



2. 要求図書

- a. 下表により、答案用紙の定められた枠内に記入する。ただし、寸法線は、枠外にはみだして記入してもよい。
- b. 図面は黒鉛筆仕上げとする(定規を用いなくてもよい)。
- c. 記入寸法の単位は、mmとする。なお、答案用紙の1目盛は、4.55mm(矩計図にあっては、10mm)である。
- d. シックハウス対策のための機械換気設備等は、記入しなくてよいものとする。

要求図書 ( )内は縮尺	特記事項
(1) 1階平面図兼配置図 (1/100)	ア. 敷地境界線と建物との距離、建築物の主要な寸法を記入する。 イ. 門、塀、植栽、駐車スペース等を記入する。 ウ. 室名を記入する。 エ. 店舗部分に、厨房設備機器(流し台、調理台、コンロ台、冷蔵庫、手洗い器)、テーブル、椅子、カウンター、レジ台等を記入する。 オ. 「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」に△印を付ける。 (注)「耐力壁」とは、筋かい等を設けた構造上有効な壁をいう。 (以下同じ) キ. 矩計図の切断位置を記入する。
(2) 2階平面図 (1/100)	ア. 建築物の主要な寸法を記入する。 イ. 室名を記入する。 ウ. 流し台、調理台、ガス台、浴槽、洗面台、洋風便器、家具を記入する。 エ. 「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」に△印を付ける。 (注)「耐力壁」とは、筋かい等を設けた構造上有効な壁をいう。 オ. 1階の屋根伏図も記入する。 カ. 矩計図の切断位置を記入する。
(3) 2階床伏図 (1/100)	ア. 主要部材(通し柱、1階及び2階管柱、胴差、2階床ばり、火打ちばり、)については、凡例の表示記号にしたがって記入し、断面寸法を凡例欄に記入する。ただし、主要部材のうち、平角材としたものについては、その断面寸法を図面上に記入する。なお、根太については、記入しなくてもよい。 イ. 1階屋根部分がある場合は、1点鎖線で範囲を記入する。 ウ. その他必要に応じて用いた表示記号は、凡例欄に記入する。 エ. 建築物の主要な寸法を記入する。
(4) 立面図 (1/100)	南側立面図とする。
(5) 矩計図 (1/20)	ア. 切断位置は、客席スペースを含み、1階・2階それぞれの外壁の開口部を含む部分とする。 イ. 作図の範囲は、柱心から1,000mm以上とする。 ウ. 矩計図として支障のない程度であれば、水平方向及び垂直方向の作図上の省略は、行ってもよいものとする。 エ. 主要部の寸法等(床高、天井高、階高、軒高、軒の出、ひさしの出、開口部の内法、屋根の勾配)を記入する。 オ. 主用部材(基礎、土台、大引、1階根太、胴差、2階床ばり、2階根太、けた、小屋ばり、もや、たるき)の名称・断面寸法を記入する。ただし、1階床を土間コンクリートとする場合は、コンクリートの厚さ等を記入する。 カ. 床下換気口(1階床が木造床組の場合のみ)の位置・名称を記入する。 キ. アンカーボルト、羽子板ボルト等の名称・寸法を記入する。 ク. 外気に接している次の部分の断熱・防湿措置を記入する。 ・屋根(小屋裏が外気に通じている場合は、屋根の直下の天井) ・外壁 ・1階床 ・その他必要と思われる部分 ケ. 室名及び内外の主要な部位(屋根、外壁、床、内壁、天井)の仕上げ材料名を記入する。
(6) 面積表	ア. 建築面積、床面積及び延べ面積を記入する。 イ. 建築面積及び床面積については、計算式も記入する。 ウ. 数値は、小数点以下第2位までとし、第3位以下は切り捨てる。